

笹子仁左衛門

1月号
2024.01.01

[制作]
令和5年度
矢島高等学校
2年A組

仁左衛門の自己紹介

笹子仁左衛門は、本当の名を佐藤仁左衛門といい、今から約400年前の江戸時代に生きた人物です。当時の矢島飢饉などが影響し、人々の生活は大変苦しかったそうです。また、藩主の代わりに矢島を治めていた三浦氏などによる厳しい年貢の取り立てもあり、矢島の地を離れる人が絶えなかったほどでした。そのような中、矢島の人々を助けようと立ち上がった仁左衛門は仲間の和光院らとともに城主に年貢を下げることを要求しましたが、山本一党らによって悪人に仕立て上げられ、酷い仕打ちを受けました。和光院らは裸森という場所で処刑されたと伝わっています。その後、農民たちが起こした一揆により、山本一党らは矢島の地から逃げていきました。騒動の後、年貢高はもとにもどり、農民たちの生活は落ち着いていきました。農民を守った仁左衛門は現在鳥海町笹子地域の青田神社にて安らかに眠り、この地域の農業の神として地元の人から末永く親しまれています。



当時の矢島の様子

ちなみに、ここ民部坂は農民が年貢を納めに行くときに登った坂でした。農民は皮肉を込めてこの民部坂を年貢坂と呼んでいたそうです。農民の一揆により、山本一党が逃げていったのもこの民部坂であることから、立場の異なる人たちの歴史や思いの詰まった坂だと感じます。また、この滝には不動明王が祀られています。これは、1859年に当時多発していた災害防止を祈願して祀られたそうです。不動明王が持っている刀で人の煩惱を切ると言われています。また、片目ずつ上と下を睨んでおり、視野を広くして私たちを守ってくれています。病氣平癒、安産、災害除去、財福などの卸利益をもたらすとされる不動明王ですが、現在もこの地域の住民によって、大切に管理されています。



仁左衛門、和光院と共に信仰される

現在の仁左衛門と和光院たち

農民を守った仁左衛門は、現在鳥海町笹子地域の青田神社にて、安らかに眠り、この地域の農業の神として、地元の人から末永く親しまれています。また、裸森には、人々のために、立ち上がった和光院らを偲び、地域の人々の手によって、義烈良民の墓と刻まれた石碑などが建てられました。和光院は字がとても綺麗な人でした。学業成就の神として、現在も地域の人達から大切に、信仰されています。

